



第4回

パーフェクトな仕事

考え方

問一 まず「余力」という言葉の意味をおさえましょう。「余力」とは、文字通り「余った力」ということで、「余裕」と言いかえてもよいでしょう。

次に、①に「その余力」とあるので、その前の一文に着目します。

すでに調理場の仕事は習得し、周囲が見えてくるようになっていた。(2〜3行目)

筆者は、「すでに調理場の仕事は習得」してしまつたので、その分、周りに目を向ける「余力」「余裕」が生まれたというのですね。**ア**が正解の選択肢です。

イは「師匠である父から店のことをすべて任せられるようになった」という部分がありません。「その余力」が生まれたのは、「父からぼくへと世代交代する前の数年間」のことだと説明されていますね。

ウの「周囲に厳しく接するようになった」や、**エ**の「ゆくゆくはトップに立つて……という自覚が生まれた」は、「余力」「余裕」の説明としてはあいません。

- ① 人間なのだから完べきなんてありえない。
- ② 実際みなどこかしらで失礼なことをしているものなのだ。
- ③ 人間だから失敗するのもだ。
- ④ ああ、これは失敗したな〜と思ったことをあまりしないように気をつけたいのである。
- ⑤ <全部>パーフェクトでやる人間なんてどこにもいない。……>

それでは、それぞれの選択肢を見ていきましょう。

ア 「人間だから失敗するのは自然なことだよな」は、③にあてはまります。

イ 「ときにはきついことも言わないといけないよな」は、①〜⑤の中にあてはまるものがありません。

ウ 「失敗したら次に気をつけたいんだよな」は、④にあてはまります。

エ 「だれだって失礼なことにはしているものだよな」は、②で書かれていることとあっていますね。

今回は「適切でないもの」を選ぶ問題なので、**イ**を選びます。

このように整理すると、「そのくらの気持ち」は、**問二**で考えたようにしてもパーフェクトを求めなければ気がすまない」という気持ちとは、正反対のものだとわかりますね。



問四 ④の直前に「教えることも難しい」とあるので、筆者が弟子たちに教えたこととは何かを考えればよいとわかります。24行目からの段落では、「ぼくが弟子に教えている」こととして、

「余力」が生まれた結果、「完べきな仕事」をしたい、「サービスの徹底」を目指したいという気持ちになったんだね。



問二 「パーフェクト」とは、「完べき。完全」という意味です。

②の直後で、「野菜の長さ」にこだわる様子が述べられていますね。このように細かいところにまで「パーフェクト」を求めた理由の一つは、**問一**で見たように「余力」が生まれたことですが、それ以外に、筆者は次のようにふり返っています。

ゆくゆくはトップにならなければいけないのだからと気負いすぎたというところもある。かかげた理想に近づくために、「こうしなきゃいけない」「ああしなきゃいけない」と考えすぎてがんばりがらめになっていた。(8〜11行目)

つまり、いずれ店をつぐ者として理想をいただき、それに向かってがむしゃらにつつ走ってしまった、ということですね。これは「いずれは店のトップになるという自覚があったため、理想を求めて気負いすぎていたから」と説明している**エ**とあいますね。

アの「細かいところで料理の味が変わると、父に教えられていた」や、**イ**の「自分自身の味を作り出したかった」という記述は、問題文にはありませんのでまちがいです。筆者の弟子の話は、このあと出てきますが、**ウ**のような内容は問題文に書かれていません。

問三 「そのくらの気持ち」については、12〜18行目で具体的に説明されています。

次の二つがあげられています。

- ① 何かあっても「失敗は成功のもと」と思える心のゆとり。
- ② お客さんに対しては、できるかぎり厳しくパーフェクトを目指さないといけないという義務。

④は「これらのこと」となっているのですから、このどちらかだけでは不十分ということになります。そこで、この二つを二十五字でまとめている部分はないか、文章全体から探してみます。すると6行目からの段落で、「弟子に伝わってはいないが、根付いてはいない」ので「絶えず意識させていかなければならない」として、「パーフェクトは無理だけど、できるかぎりを目指す意識」と示されていますね。先ほどまとめた①・②とは、次のように対応しています。

① = ①
 パーフェクトは無理だけど、できるかぎりを目指す意識

② = ②
 ②の内容をどちらもふくんでいる二十五字の表現なので、この部分が正解となります。

問五 ⑤は、「最も信用している部下や弟子」のことです。一般的には「右腕、左腕」ではなく「右腕」という言い方をしますが、きつと筆者は、こういう弟子は一人ではないよ、といった意味をこめてこのように言ったのでしよう。

「右腕」は自分よりも地位や年齢が下の人に対して用いる表現なので、「仲間」とした**ウ**はまちがいです。

問六 「余裕が出てきたときに言わないと意味がない」ということは、つまり「余裕がないときには言っても意味がない」ということですね。これは同じ段落にある、「新しく入ってきたばかりの子には、最初からあれこれ言ったりはしない」ということを指しています。

筆者は、自分のお店に「新しく入ってきたばかりの子」は、「それどころじゃない」「その日をやつとの思いで乗りこえている状態」だと述べています。目の前のことをこなすのに必死なのですから、そのようなときに「あれこれ」言っても、吸収することができなくて意味がないのですね。

したがって、解答では「新しく入ってきたばかりの子」がどのような状態であるかを説明しましょう。そのような状態では、「言われたことを吸収できない」「言われたことを理解できない」というところまで書ければ、よりよい解答となります。

問七 問四でも考えたように、筆者は「パーフェクトは無理だけど、できるかぎりを目指す意識」をもってほしいと弟子たちに望んでいます。このような意識を身につけることで、弟子たちにとのようになつてほしいというのでしょうか。次の部分に着目しましょう。

つきつめて言えば、おいしいものも作り、さらにお客さんのことも考えられる、多くの弟子はそうあつてちょうだいね、ということ、そのときどきの事象をもって伝えていくということになるだろう。(40〜43行目)

「つきつめて言えば……多くの弟子はそうあつてちょうだいね」と表現しているのがポイントです。「つまり最も弟子に願っている

自由作文

考え方

問一 毎日勉強したり生活したりする中で、みなさんもたくさん職業について知っていることでしょう。その中から、自分に向いているのではないかと思えるような職業や、やってみたい職業について書いてみてください。

正しい職業名が書けなくてもかまいません。「〜をする職業。」などと説明してもよいですよ。

問二 問一で答えた職業について、その内容を説明します。まずは自分の知っていることを書き出してみましょう。それに加えて、おうちの人に聞いたり、図書館やインターネットなどで調べてみてもよいでしょう。実際にその職業についている人が身近にいれば、どんなことをしているのか、インタビューをしてみてもよいですね。調べてみてわかったことについてもどんどん書き加えてみてください。

問三 その職業で何をしたいのか、なぜその職業につきたいのかを説明します。関係する体験や、実際にその仕事をしている人と話した体験などについても書けると、よりわかりやすいものになります。

いざその職業についてみると、それまではわからなかった大変さ

のは」ということですね。これはウの「おいしい料理を作り、お客さんのことも考えられる」という説明にあっています。

ア 「言われなくても自分で判断して行動できるようにすること」は、問題文には書かれていない内容です。

イ 問題文には「将来的には人を動かさなければいけない」(46〜47行目)とありますが、筆者はそのためにいろいろ学ぶ必要があると言っているのであって、「みなが自分の店を持って経営すること」を望んでいるわけではありませんので、まちがいです。

エ 49行目からの段落で、後輩をどのように指導してほしいかということを書いています。後輩の指導を立派にできるようにすることが、筆者が「最も望んでいること」ではありませんね。

筆者は、「おいしいものも作り、さらにお客さんのことも考えられる」人になってほしいということを、毎日の修行の中で弟子たちに伝えていくんだね。



答え

問一 ア

問二 エ

問三 イ

問四 パーフェクトは無理だけど、できるかぎりを目指す意識

問五 エ

問六 新しく入ってきたばかりの子は、その日を楽しめるのが

あつて、それ以上のことは吸収できないから。(48字)

問七 ウ

や、いかにその仕事が必要とされているのかといったこともわかってきます。もちろん今は知っている範囲でかまいませんから、なぜ自分はその職業につきたいのか、その職業についていたらどのような仕事をしたのかについて自由に書いてみましょう。

将来つきたい仕事についている調子でみたら、その仕事についてはたくさん勉強が必要だということがわかったよ。目標があると、やる気が出てくるな。



答え

問一 例

問二 例

問三 例

例 看護師 病院で患者さんの世話や医師の治療の手伝いをする仕事。

例 わたしはぜんそくで入院したことがある。どの看護師さんも、わたしの「とても苦しい」という気持ちをわかってくれてうれしかった。看護師さんたちはたくさん病気の子どもたち一人一人の気持ちを考えてくれていた。わたしも看護師になって、つらい思いをしている人の気持ちによりそって、安らぎをあたえてあげられるようになりたいと思った。